「未来（あす）へと続く道～忘れない五月の空～」の歌がつくられた経緯について

「未来（あす）へと続く道～忘れない五月の空～」は、太平洋戦争末期、今治空襲に遭った県立今治高等女学校（現今治北高校）の卒業生「仙波（旧姓　矢野）邦子」さんの手記を基に、命の尊さを訴えた歌です。今治高女では1945年5月8日の今治空襲で生徒11人が犠牲になりました。当時1年生の作者が裏山（姫坂山）に避難する際に、手を引いてくれた上級生を失い悲嘆に暮れる様子が詳細に記された手記をもとに作られました。

太平洋戦争は昭和 17 年 6 月のミッドウェー海戦の敗北を境に、日本の戦局が不利に傾き始め、昭和 19 年 11 月に入ると、本土空襲が本格化し建物や子供たちの疎開が始まりました。昭和 20 年4月には、米軍が沖縄に上陸し沖縄戦がはじまりました。今治は昭和 20 年に、4月 26 日、5月8日、8月5～6日の3回にわたって空襲を受けました。5月8日の空襲での死者は 29 名、そのうちの 11 名が今治高等女学校の生徒でした。8時 30 分頃、姫坂山に数発の爆弾が落下し、そのうちの一発が生徒たちを直撃しました。8月の空襲は苛烈を極め、真夜中の約2時間の空襲で市街地は壊滅状態になり、今治高等女学校を始め、今治明徳、今治精華、今治工業など校舎のほとんどが焼失し、454 人が犠牲になっています。3回の空襲で、合わせて 500 名を超える方が亡くなっているのです。

「生きたい」と必死で逃げた当時の生徒らの思いとは逆に、現代では「誰にも会いたくない」「死にたい」と簡単に口にする若者が多く、時代のギャップにショックを感じます。現在、国内では戦争もなく平和な時代になっていますが、様々な悩みやストレスを抱えながら必死で生きている方もたくさんいます。生きる意味や目的を見いだせず自暴自棄になってしまうこともあるかもしれません。でも、一度しかない自分の人生を、どうか前向きに生きて幸せになってほしい。そういった願いを込めて、この歌を作りました。

5月8日には空を見上げてください。「生きたい」と祈り、愛する人に「会いたい」と切に願いながら亡くなった人々のことや、その悲しみを背負って自身の人生を生き抜いてきた人たちの思いを、どうか忘れないでほしいと願います。

参考文献：「創立百周年記念史」今治北高等学校

「今治市の戦災　あなたに伝えたい　第二集」今治市の戦災を記録する会